



野生植物研究所だより



● ドクダミ科 ハンゲショウ ●



ハンゲショウ

ハンゲショウは、低地の水辺や湿地に生える多年草で、草全体に一種の臭気があります。地下茎は白色で太くて横にはい、茎は高さ50～100cmほどになります。葉は卵形、基部は心形で、長さ5～15cm、幅は4～9cmほどで、5～7脈があります。花期になると茎の先の花序の葉は、下半分が白くなります。6～8月頃、長さ10～15cmの細長い花穂に、多数の花をつけ、基部の方から順に咲きます。花穂は、初めたれていますが、花が咲くに従って立ち上がってきます。花弁はなく、雄しべ6～7本、雌しべ1本。本州、四国、九州、琉球、朝鮮、中国、フィリピンに分布します。

宮城県では、生育が3ヶ所確認されているだけで、分布上大変貴重な植物の一つです。環境庁カテゴリーでは対象外となっていますが、宮城県では、絶滅の危険が増大している種ということで、絶滅危惧Ⅱ類に入っています。ハンゲショウは「半夏生」と書きます。暦の上では、夏至から数えて11日目を半夏生といい、この半夏生の頃に花を咲かせることから名前がつけられたと言われています。茎の先の花序の葉色の特徴から、半化粧(葉の下半分に白粉を塗りかけた、つまり半分だけ化粧をした状態)とする理解もあります。

● 民家の屋敷にオオミヤマトンビマイが... ●



オオミヤマトンビマイ

8月6日、長岡の山田敬男さんが、きのこを見てほしいということで、大きなきのこを持ってきてくれました。山田さんの近所の方の屋敷の木の根元に発生したということでした。拝見すると、なんと、径50cm、幅35cmほどの見事なオオミヤマトンビマイでした。大きくなりすぎて、食用にするには固すぎるのではないかと思いましたが、その一部をいただき、油いためにしました。歯ごたえがありすぎという状態でしたが、味が良く、大変おいしくいただきました。

● 盛夏 収穫が遅れた畑はにぎやかでした ●

【ジャガイモの果実はトマトそっくり！？】 お盆を迎え、大望のジャガイモ掘りがやっとできました。男爵とメイクインを植えていましたが、表面に出ていたものはタヌキにでもかじられたのか、何十個もかじられたあとがありました。アカザや、アマランサス、



アマランサス

イヌビユ、メヒシバなどが伸び放題(草取りを1回だけしかしませんでした)となった状態にしておいたこともあり、ジャガイモは、ほとんどが小ぶりでしたが、すべて掘り出し、やっと安心しました。枯れたジャガイモの茎の先にトマトそっくりの果実がついていました。網地島では、果実のついたジャガイモをよく見たのですが、私の畑では初めてです。

【ミョウガは花盛り】 取り残しているミョウガを収穫するために畑へ行きました。なぜ、もっと早く収穫しなかったのかと反省するばかりです。それは・・・ミョウガは花盛り・・・半分以上は、花が咲いていたからです。収穫したものは塩漬けにしておき、後で野菜の漬け物等に使用する予定です。



ジャガイモの果実



ミョウガの花

【連絡先】 〒989-6252 宮城県大崎市古川荒谷字簀ノ子町12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/>

E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>